氏　　名	：	扇原　貴志
専攻分野の名称	：	博士（教育学）
学 位 記 番 号	：	博甲第 301 号
学位授与年月日	：	平成３０年３月１６日
学位授与の要件	：	学位規則第４条第１項該当　課程博士
学 位 論 文 名	：	大学生における子どもへの関心とその関連要因および子育ての社会化志向への影響
論文審査委員	：	（主査）　教授　首藤　敏元 （副査）　教授　岩立　京子　　教授　吉川　はる奈 教授　中下　富子　　教授　松嵜　洋子

学 位 論 文 要 旨

問題（はじめに，第１章，第２章）

近年，若者を取り巻く環境の変化により少子化が進んでいる。また，子どもや子育てを巡る多くの問題も存在する。内閣府（2005）は，子育てが家族の責任だけで行われるのではなく，社会全体で取り組む，「子育ての社会化」が重要であると指摘した。子育ての社会化を目指すには，各個人の子どもへの関心を高め，社会全体で子どもを育もうとする態度を持つことが大切である。特に近い将来，直接的にも間接的にも子育てを担い，支えるだろう大学生の子どもへの態度はどのようなものなのであろうか。本研究は大学生における子どもへの態度を検討し，その要因を明らかにするものである。

Lorenz (1943)は，子どもを目にした際に関心が生じるのはヒトが持つ原初的反応であるとした。従来，子どもへの関心は養護性（小嶋，1989）や親準備性（井上・深谷，1983）の 1 下位尺度とされてきた。養護性や親準備性は，子どもへの「関心（共感性）」と子どもをうまく扱う「技能（効力感）」の 2 下位概念から構成され，前者は後者に影響する（小嶋，1989）。しかし，養護性の本来の発揮対象は子どもに限らず幅広く，養護性の「子ども」とは自分の子を意味しない。一方，親準備性は将来，親となり自分の子を育てることを前提としたレディネスである。

子どもをもたない人々が増えている今日において，近い将来，子育てを担うであろう大学生を対象とした研究を行う場合，自分の子どもだけを育む態度を検討するのみでは，複雑化した子育て環境への構えや子育ての社会化志向を的確に検討できない。そして，子どもへの態度のうち，最も原初的な反応である子どもへの関心を検討することは，広く社会に存在する子どもや子育てへの態度を評価する第 1 歩になる。

そこで本研究では，子どもへの関心の関連・規定要因として，乳幼児との接触経験と接触時感情，対児感情，子ども観，他者意識，次世代育成力，養護性，子育ての社会化志向を取り上げる。また，子どもへの関心の高さが子育ての社会化志向に及ぼす影響についても検討する。個人の主観的感情，認知である子どもへの関心が，子どもや子育てに関する社会問題や社会全体で子どもを育てようとする態度に及ぼす影響を検討し，子どもへの関心を育む意義について明らかにする。

なお，先行研究での子どもへの態度の測定手法を概観した結果，本研究では子どもへの関心の測定方法として質問紙法と選好法を用いることとした。

研究 1（第 3 章）

質問紙調査を実施し，子どもへの関心尺度を作成することを目的とした。因子分析の結果，「好意的注目」「同情」「好奇心」「寛容性」の 4 因子が抽出された。対児感情との間に相関が見られ，尺度の併存的妥当性が確認された。また，幼児との接触経験との間に正の相関が見られた。

研究 2（第 4 章）

子どもへの関心尺度の更なる併存的妥当性を検討することを目的に，子ども観および他者意識との関連について質問紙調査により検討した。その結果，肯定的な子ども観，他者意識の高さが子どもへの関心を高めていた。よって，子どもへの関心尺度の更なる併存的妥当性が確認された。

研究 3（第 5 章）

尺度により測定した子どもへの関心の程度と実際の行動的側面との関連を検討することを目的とした。まず，質問紙法により子どもへの関心の程度を測定し，次に選好法により子どもへの選好の程度を測定した。そして，質問紙法と選好法の関連を検討した結果，子どもへの関心尺度の得点が高いほど，実際に幼児の画像を選好するという関連が見られた。よって，子どもへの関心尺度と実際の行動との関連が示された。

研究 4（第 5 章，第 6 章）

過去の乳幼児との接触経験と接触時感情が現在の子どもへの関心の程度に及ぼす影響について検討することを目的とした。同時に，子育てへの自信を表す次世代育成力と子どもへの関心の関連について尺度により検討することとした。本研究は質問紙法により実施した。まず，乳幼児との接触経験と接触時感情を測定する尺度を新たに作成した。因子分析の結果，接触経験は「遊びの共有」「世話」「間接接触」，接触時感情は「快感情」「当惑感情」「不快感情」の 3 因子ずつが抽出された。これらと子どもへの関心との関連を検討した結果，接触経験よりも接触時感情の方が影響力は大きく，特に接触時の快感情が子どもへの関心を高めていた。次に，子どもへの関心と次世代育成力の関連を検討した結果，子どもへの関心の高さが次世代育成力を高めていた。よって，小嶋（1989）が想定した養護性の理論モデルが支持された。

研究 5（第 5 章，第 7 章）

子育ての社会化志向尺度を作成し，子どもへの関心との関連を検討することを目的とした。同時に，子どもへの関心とその上位概念である養護性との関連を検討することを目的とした。本研究は質問紙調査により実施した。子育ての社会化志向尺度は因子分析の結果，「問題解決志向」「忌避感」「家庭での子育て志向」「税負担の受容」の 4 因子が抽出され，既存尺度と相関が見られ，併存的妥当性が確認された。そして，子どもへの関心の高さは子育ての社会化志向を高めていた。養護性との関連では養護性の「共感性」の側面が子どもへの関心を高め，子どもへの関心は「技

能」を高めていたことから，子どもへの関心が養護性の下位尺度であることが量的に示された。

総合考察（第 8 章）

子どもへの関心と子育ての社会化志向の構成概念，要因，教育への応用可能性等について述べた。大学生の子どもへの関心を高めることの意義について心理学的，教育学的な観点から総合的に考察した。